

特集

止血のひけつ 2023

内因性出血にせよ、外傷による出血にせよ、出血の制御は今も昔も救急医療/医学における重要なテーマであり、救急にかかわる医師であれば「出血を止血する」というのは日常的に行っている医療行為です。一方で、経験したことのないような出血に対し、どのように止血を行えばよいのかと頭を抱えるケースも少なくありません。また、大量出血をきたしている患者の場合、局所の止血のみならず、凝固障害や輸血、薬剤の投与など考えるべきポイントは多岐にわたります。

本誌では2007年8月号で「止血のひけつ」（ゲストエディター：渋谷正徳先生）と題した特集を組んでおり、今号の特集は、その16年ぶりのアップデート版として企画したものです。この間に多くの医療機器や薬剤が開発され、止血方法も以前と比べて大きく変わってきています。しかし、選択肢は増えたものの、それをどのように活用してよいか悩みが増えたのもまた事実です。

そこで本特集では、まず総論として出血全般に対する戦略やマネジメントについて、そして各論として部位・病態・疾患別に外因性出血・内因性出血に対する具体的な止血方法について取り上げ、第一線で活躍されている救急および各専門領域のエキスパートの先生方に「止血のひけつ」を伝授いただきました。

冒頭で述べたとおり、止血は救急医にとって日常的なものであるからこそ、日々の研鑽とアップデートが求められると考えます。本特集を通じて最新の「止血のひけつ」を学び、ぜひ明日からの臨床に役立てていただければ幸いです。

特集企画ゲストエディター：大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター

島崎 淳也